

**臨場感溢れる超高精細8K映像の撮影を実現する放送用レンズ2機種を新開発  
世界最高66倍ズームのボックスタイプと世界最広角7.6mmのポータブルタイプで放送業界をリード**

2020年4月16日

富士フイルム株式会社(社長:助野 健児)は、臨場感溢れる超高精細8K映像の撮影を実現する放送用ズームレンズ「FUJINON HP66×15.2-ESM」(以下、「HP66×15.2」)と「FUJINON HP12×7.6ERD-S9」(以下、「HP12×7.6」)を新たに開発しました。

「HP66×15.2」は、世界最高※1 66倍ズーム・世界最望遠※1 1000mmのボックスタイプで、「HP12×7.6」は、世界最広角※1 7.6mm-望遠 91mmをカバーするポータブルタイプです。なお、「HP66×15.2」は2020年夏、「HP12×7.6」は同年秋の発売を予定しています。

今後、富士フイルムは、最先端の映像表現の領域で培ってきた光学技術を活かし、高性能な放送用レンズのラインアップのさらなる拡充を進め、放送業界をリードしていきます。

※1 8K対応の放送用レンズとして。2020年4月16日時点。当社調べ。



「HP66×15.2」



「HP12×7.6」

〈8K対応の光学性能を実現する独自技術〉

- ・口径200mmの大型レンズの表面をナノレベルの精度で研磨する精密加工技術
- ・解像度などの光学性能を高精度に計測する光学シミュレーション技術
- ・複数のレンズ群を正確に配置し筐体に組み込む機械設計・組立技術

現在、スポーツ中継やライブ・コンサート中継、ドキュメンタリー番組を中心に、高精細映像の普及がワールドワイドで進んでいます。日本において2018年12月に「新4K8K衛星放送」※2が開始され、また、中国でも8K放送の実用化に向けた動きが加速するなど、4K・8K映像のさらなる普及が期待されています。このような中、4K・8K対応の高性能な撮影機材に対するニーズが高まっており、特に4Kの4倍の解像度となる8K映像の撮影には、非常に高い光学性能を備えたレンズが求められています。

富士フイルムは、長年培ってきた高度な光学技術を駆使し、2001年に8K対応放送用レンズを開発。その後、ラインアップを拡充し、放送業界の高画質化を牽引してきました。

今回開発した「HP66×15.2」と「HP12×7.6」は、超高精細8K映像の撮影が可能な放送用ズームレンズです。8K対応の解像力のみならず、鮮やかな色再現と高いコントラストを実現しているため、ハイダイナミックレンジ(HDR)を活かした階調豊かな映像制作を可能とします。また、本年3月に発売したフォーカスデマンド※3「FUJINON EPD-51A-D02/F02」との組み合わせにより、精緻なフォーカシングが可能。高いピント精度が求められる8K映像の撮影を快適に行うことができます。

「HP66×15.2」は、15.2mmから世界最望遠1000mmまでの焦点距離をカバーするボックスタイプです。世界最高66倍ズームを実現しているため、遠く離れたスポーツ選手の決定的なプレーなどをとらえます。また、「HP12×7.6」は、世界最広角7.6mmから91mmまでの焦点距離を備えたポータブルタイプで、スタジアムなどを広く映した撮影が可能です。

富士フィルムが提供するフジノンレンズは、これまで高い描写力が評価され、世界中の映画、TVCM、スポーツ中継などのさまざまな撮影現場で採用されています。今後も、富士フィルムは、4K・8K 対応レンズラインアップのさらなる拡充を進め、多様化する映像制作ニーズに応えていきます。

※2 「新 4K8K 衛星放送」は、BS・110 度 CS で開始された 4K・8K 放送のこと。

※3 放送用レンズのアクセサリで、手元でフォーカスを調整するためのコントローラーのこと。

## 記

### 1. 開発品名、発売時期:

| 開発品名                                     | 発売時期    |
|--|---------|
| 8K 対応放送用ズームレンズ「FUJINON HP66 × 15.2-ESM」  | 2020 年夏 |
| 8K 対応放送用ズームレンズ「FUJINON HP12 × 7.6ERD-S9」 | 2020 年秋 |

### 2. 「HP66 × 15.2」と「HP12 × 7.6」の主な特長:

#### (1) 臨場感溢れる超高精細 8K 映像の撮影を実現する放送用ズームレンズ

- ・ ナノレベルの精度でレンズ表面を研磨する精密加工技術や、複数のレンズ群を正確に配置し筐体に組み込む機械設計・組立技術などを駆使することで、臨場感溢れる超高精細 8K 映像の撮影を実現します。
- ・ 非球面レンズと蛍石レンズにより、画像の歪みや周辺解像力の低下を徹底的に抑制。さらに、撮影距離に応じて複数のレンズ群を制御する「フローティングフォーカス方式」を採用しているため、撮影距離の違いによる性能変化を極限まで抑え、近距離から無限遠までシャープな映像を提供します。
- ・ 当社独自の多層コーティング処理「HT-EBC (High Transmittance Electron Beam Coating)」をレンズ表面に施し、光の透過率を向上させたことで、鮮やかな色再現と高いコントラストを実現。HDR を活かした階調豊かな映像制作が可能です。
- ・ 「HP66 × 15.2」は、15.2mm から世界最望遠 1000mm までの焦点距離をカバーするボックスタイプです。世界最高 66 倍ズームを実現しているため、遠く離れたスポーツ選手の決定的なプレー、ライブステージ上のアーティストの表情や仕草などをとらえます。また、「HP12 × 7.6」は、世界最広角 7.6mm から 91mm までの焦点距離を備えたポータブルタイプで、スタジアムやライブ会場を広く映した撮影が可能です。

#### (2) 高性能なフォーカスデマンドや光学式防振機構により快適な 8K 映像撮影を実現

- ・ 手元でフォーカスの調整を行えるフォーカスデマンド「FUJINON EPD-51A-D02/F02」との組み合わせにより、精緻なフォーカシングが可能。高いピント精度が求められる 8K 映像の撮影を快適に行えます。
- ・ 高倍率ズームレンズで採用し好評いただいている、高性能な光学式防振機構を搭載。風や足場の揺れによる映像のブレをタイムラグなく的確に補正し、安定した映像撮影を実現します。



フォーカスデマンドとの組み合わせにより、精緻なフォーカシングが可能。

#### (3) 9 枚絞り羽根採用による自然なボケ味を実現

- ・ 9 枚絞り羽根を採用することで、円形に近い絞り形状を実現。より自然なボケ味を活かした映像表現が可能です。

#### (4) 16bit エンコーダー※4を標準装備

- ・ ズームやフォーカスの位置情報などのレンズデータを高分解能で出力できる 16bit エンコーダーを標準装備。CG 映像とライブ映像を合成するバーチャルスタジオなど、さまざまなシステムと連携可能です。

※4 位置情報をデジタル信号に変換するセンサー。16bit の精度で分割して、ズーム・フォーカスの位置情報を電気信号で送出。

報道関係  
お客様  
富士フィルム

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

コーポレートコミュニケーション部  
光学・電子映像事業部 営業グループ  
ウェブサイト

TEL03-6271-2000  
TEL048-668-2143  
<http://fujifilm.jp/>